

くろまぐろ型TACに関する秋田県計画(試行)
(第3管理期間)

平成 29 年 8 月 30 日一部改正
平成 29 年 7 月 1 日公表

第1 太平洋くろまぐろの保存及び管理に関する方針

- 1 本県において太平洋くろまぐろは、定置網漁業では主に男鹿半島周辺海域において、定置網漁業以外(曳き縄漁業、はえ縄漁業及び一本釣り漁業等)では主として男鹿半島以北において漁獲され、本県にとって重要な資源となっている。
- 2 このため、同資源の保存及び管理を通じて、安定的で持続的な利用を図るために、国の基本計画により決定された漁獲可能量の本県の数量について本県の漁業の実態に応じた適切な管理措置を講じることとする。
- 3 漁獲可能量を適切に管理し、必要に応じて漁業者等の指導又は採捕の数量の公表等実効措置を講じるため、同資源の採捕実績の的確な把握に努めることとする。
- 4 また、漁獲可能量について本県に定められた数量に係る管理を適切に行っていくためには、太平洋くろまぐろの分布、回遊状況、当該資源を取り巻く環境等についてのより詳細な科学的データ又は知見が必要であり、当該データの蓄積又は知見の進展を図るため、秋田県水産振興センターを中心とし、国又は関係都道府県との連携の下、資源調査体制の充実強化を図ることとする。
- 5 太平洋くろまぐろの適切な保存及び管理を図るため、漁業者間の自主的取り決めを後押しし、引き続き漁業者等による自主的な資源管理を推進する。

第2 太平洋くろまぐろの漁獲可能量について秋田県に定められた数量に関する事項

太平洋くろまぐろ 30 キログラム未満の小型魚 (以下「小型魚」という。)	19.48トン
太平洋くろまぐろ 30 キログラム以上の大型魚 (以下「大型魚」という。)	国の基本計画第5の1の(2)に定めるように、我が国全体の漁獲量が5,132トンを超

	えないよう管理する。
--	------------

小型魚の割当数量について、第3で定めるところにより、割当数量が変化するのにあわせて、本県の数量も変化するものとする。また、小型魚について、全国において、3,423.5 トンの数量を超えたときには、本県に定める小型魚の数量が消化されていなくとも、又は定置網漁業の共同管理数量が消化されていなくとも、その時点における当該都道府県における採捕の実績をもって、本県の小型魚の数量とする

第3 太平洋くろまぐろの知事管理量について、海洋生物資源の採捕の種類別、海域別又は期間別の数量に関する事項

小型魚について採捕の種類別に定める数量は次のとおりである。

本県の定置網漁業の数量	8.08トン
本県の漁船漁業等の数量	11.40トン

本県の数量のうち、定置網漁業に割り当てる数量については、本県とともに北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、千葉県、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、静岡県、三重県、京都府、兵庫県、和歌山県、佐賀県、長崎県及び鹿児島県が定置網の共同管理を行うこととするが、これらの都道府県における定置網漁業での漁獲量の積み上げにより、定置網の共同管理に参加する都道府県の定置網漁業の割当数量の合計値 580.54 トンを超えるおそれが著しく大きいと認めるとき(構成都道府県の定置網漁業の割当数量の合計値の9割を超えた時点をいう。)には、本県が定置網漁業の割当数量を消化していない場合であっても、その時点における本県の漁獲実績をもって、本県の定置網漁業の割当数量とする。

第4 太平洋くろまぐろの知事管理量に関し実施すべき施策に関する事項

本県では、第2及び第3に示した知事管理数量を遵守するため、以下の管理措置を講ずるものとする

- 1 本県の採捕の種類別の時期別の割当数量の目安は次表のとおりとし、関係漁業協同組合(以下「漁協」という)及び所属漁業者は、この割当数量を超過しないよう努める。

期 間	数量(平成 29 年7月からの累計)	
	定置網漁業	漁船漁業等

平成 29 年 10 月末まで	6. 48トン	11. 40トン
平成 30 年2月末まで	6. 48トン	
平成 30 年6月末まで	8. 08トン	

2 第3に示した本県の漁船漁業等の割当数量について、採捕の種類毎の漁協別の割当数量の目安を次表のとおり定め、関係漁協及び所属漁業者は、これを超過しないよう努める。

漁業協同組合名	漁船漁業等の採捕の種類
	曳き縄漁業、はえ縄漁業及び一本釣り漁業等
秋田県漁業協同組合	11. 10トン
能代市浅内漁業協同組合	0. 10トン
三種町八竜漁業協同組合	0. 10トン
八峰町峰浜漁業協同組合	0. 10トン
合 計	11. 40トン

3 釣り漁業、曳き縄漁業等(定置網漁業以外の漁業)

(1) 通常時

- ・一定以上の漁獲(1日当たり500キログラム以上)が3日間連続した場合、操業時間短縮又は操業回数(日数)抑制の実施に努める。
- ・30キログラム未満の個体の再放流に努める。

(2) 第3に示した漁船漁業等の数量の7割到達時

- ・操業時間短縮又は操業回数(日数)抑制の実施に努める。
- ・30キログラム未満の個体の再放流に取り組む。

(3) 第3に示した漁船漁業等の数量の8割到達時

- ・操業時間短縮又は操業回数(日数)抑制の実施に取り組む。
- ・30キログラム未満の個体の再放流に取り組む。

(4) 2の漁協別の割当量の目安について(2)及び(3)を同様に取り組むよう努める。

(5) (1)から(3)の取組状況について、漁業者ごとの記録を求め、履行を確認する。

4 定置網漁業

(1) 通常時

- ・一定以上の漁獲(1日当たり300キログラム以上)が2日間連続した場合、網起こし回数の抑制実施に努める。
- ・30キログラム未満の個体の再放流に努める。

(2) 第3に示した定置網漁業の数量の7割到達時

- ・網起こし回数の抑制実施に努める。
- ・30キログラム未満の個体の再放流に取り組む。

(3) 第3に示した定置網漁業の数量の8割到達時

- ・網起こし回数の抑制実施に取り組む。
- ・一定以上の漁獲(1日当たり300キログラム以上)が2日間連続した場合、輪番で箱網開放、垣網撤去、網上げ等(休漁相当)の実施に努める。
- ・30キログラム未満の個体の再放流に取り組む。

(4) 1の期間別の割当量の目安について(2)及び(3)を同様に取り組むよう努める。

(5) (1)から(3)の取組状況について、漁業者ごとの記録を求め、履行を確認する。

5 漁獲量の報告は、沿岸くろまぐろ漁業(広域漁業調整委員会指示による承認制)、定置網漁業、その他の漁業(混獲等)別に管下の漁協分(漁協に所属していない漁業者については直接報告を求めるなど別途個別対応)の漁獲量報告を取りまとめ、小型魚・大型魚ともに一般社団法人漁業情報サービスセンターに報告する。

報告頻度は、月末締め翌月末までの報告を基本とし、漁獲状況に応じて報告頻度をあげていくこと(概数報告)とする。なお、漁獲が積み上がった場合の頻度は第5に定める報告体制により行うこととする。

6 第2及び第3に示した知事管理数量の消化状況に応じて、7割で注意報、8割で警報を発出し、第3の漁船漁業等の数量の9割に達した際は操業自粛要請し、定置網の共同管理に参加する定置網漁業はその数量を超過の際は操業自粛を要請する。あわせて、管下漁業者団体及び漁業関係者への周知及び指導方を行うものとする。

7 水産庁は定置網の共同管理に参加する都道府県のそれぞれの割当数量の合計数量が、7割に達した段階で「注意報」、8割に達した段階で「警報」、9割に達した際は操業自粛要請を各都道府県に対して発出することとし、本県は、これに応じ管下漁業者団体及び漁業関係者への周知及び指導方を行うものとする。

8 遊漁者及び遊漁船業者に対して、以下の取組みを行う。

- (1) 漁業者の取組について周知を図る。
- (2) 漁業者に対して警報等を発出した場合には、速やかに状況提供を行

い、漁業者の取組に歩調を合わせた対応を要請する。

- (3) 漁業者に対して操業自粛要請を発出した場合には、遊漁に対しても操業自粛要請を発出する。

第5 その他太平洋くろまぐろの保存及び管理に関する重要事項

1 第2及び第3に示した知事管理数量のうち、定置網漁業又は漁船漁業等の割当数量の合計数量が積み上がった場合には、次のとおりの頻度・体制で報告を求め、漁獲状況を把握することとする。

(1) 定置網漁業については、月別漁獲の特徴を踏まえて以下のとおりとする。

- ① 6～8月(主漁期):水揚げした日ごとに当該水揚げ日から3日以内
- ② 9～11月:月3回(1～10日、11日～20日、21日～末日)

(2) 漁船漁業等については、第2及び第3に示した採捕の種類別の数量の消化状況に応じて以下のとおりとする。

- ① 5割を超え6割に達するまで:月3回(1～10日、11日～20日、21日～末日)
- ② 7割を超えた場合:水揚げした日ごとに当該水揚げ日から3日以内

2 上記に基づく報告を求めた場合には、速やかに、集計値を漁協等県内関係者へフィードバックするとともに、水産庁に通知する。

3 第2及び第3に示した知事管理数量のうち、採捕の種類別に第3管理期間に差し引く数量及び同じく第4管理期間に差し引く予定の数量は以下のとおりとする。なお、第3管理期間終了時に未消化枠が生じた場合は、その分を第4管理期間に差し引く予定の数量へ充当することとする。

管理期間	差し引く数量		当初数量	差し引き後の数量
	定置網漁業	漁船漁業等		
第3管理期間	2.02トン	0.00トン	21.50トン	19.48トン
第4管理期間	1.70トン	0.00トン	(未定)	(未定)
合計	3.73トン	0.00トン	—	—